

- 1 . テーマ：子供・若者育成支援推進大綱の見直しについて
- 2 . 対象者：内閣府ユース特命報告員の登録者（中学生～29歳）
- 3 . 調査方法：Web調査
- 4 . 調査期間：2020年11月2日～23日
- 5 . 回答率：44.3%（回答者170名 / 対象者384名）
- 6 . 設問：

Q 1 「子ども・若者育成支援推進法」を知っていますか。

Q 2 「子供・若者育成支援推進大綱」を知っていますか。

Q 3 「子供・若者育成支援推進大綱」を読んでみて、どのような感想や印象を持ちましたか。

納得した点や、意外だった点、不満な点、わかりにくかった点、疑問点など、詳しく教えてください。

（自由記述）

Q 4-1 あなた自身も含め、子供・若者は、今どんなことで悩んだり、困ったりしていると思いますか。

詳しく教えてください。（自由記述）

Q 4-2 子供・若者が今悩んだり、困ったりしていることに対し、あなた自身やまわりの人たちで

取り組めることは何か、詳しく教えてください。（自由記述）

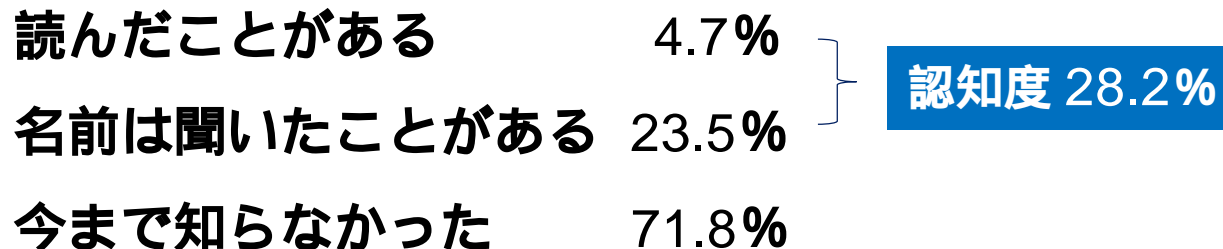
Q 4-3 子供・若者が今悩んだり、困ったりしていることに対し、政府や自治体、民間団体に取り組んで

ほしいことは何か、詳しく教えてください。（自由記述）

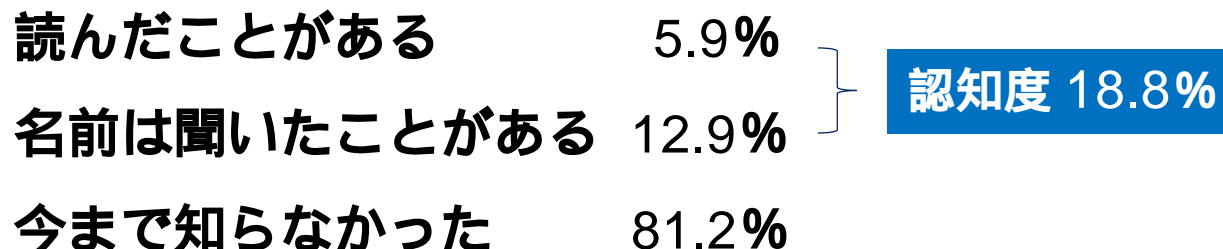
Q 5 「子供・若者育成支援推進大綱」をより良いものへと見直すために、追加したほうが良い内容、修正したほうが良い内容など、あなたのアイデアを詳しく教えてください。（自由記述）

1 法・大綱の認知度

Q1 「子ども・若者育成支援推進法」を知っていますか。



Q2 「子供・若者育成支援推進大綱」を知っていますか。



2 大綱を読んでの印象・感想

Q3 「子供・若者育成支援推進大綱」を読んでみて、どのような感想や印象を持ちましたか。納得した点や、意外だった点、不満な点、わかりにくかった点、疑問点など、詳しく教えてください。（自由記述）

【回答例】 回答結果は、必要に応じ、抜粋、要約等を行っている。以下同じ。

難しい、長い

- 言葉使いが難しかったです。子供向けの言葉のパンフレットとかがあるといいと思います。（男性/13歳/中学生）
- 困っている人が、あの長文を読む気にはなれないと思う。（男性/28歳/正社員・正職員）
- 目的は、子どもや若者の育成支援を推進することであり、より多くの人に読んでもらうためには、これでは長すぎるし、難解。時間がかかる書類は、読む側の負担になるため、コンパクトにまとめるべき。（女性/21歳/学生）
- 文字しかなく、読む気にならない。特設サイトで図表、カラーで分かりやすく説明すべき。（男性/18歳/学生）
- 全体的に堅苦しい言葉が多いと思った。子供のための大綱なのでもっと子供たちが自分で読んで内容を理解できるようなものを用意した方がいい。（男性/19歳/学生）

抽象的、イメージしにくい

- 全体としてわかりにくかった。五つの項目は区別できたが、それぞれの理想形は何で、今まで何がされてきて、何が欠けているのかイメージしにくかった。（女性/26歳/正社員・正職員）
- 抽象的でええことばかり並べているだけに見えません。何言うてるのかよくわかりません。実際に子供というのは、本当に多感でもろくて壊れやすいものだと思います。（男性/28歳/正社員・正職員）

実行性に疑問

- 個々の取り組みは知ってるものもあったが、こういった包括的な大綱があることを知らなかった。子供の健全な成長を社会で促すには全体で取り組むしかないと思うため子ども・若者育成支援推進法は非常に大切な取り組みであると思った。一方で家庭にも干渉しづらいため子供を社会全体で守り育てるということは現実的に相当難しいと感じている。（女性/21歳/学生）
- 「基本的な施策」では幅広い提案がなされていて、とても感銘を受けました。ただ、これらの美しい提案が、平成28年2月から数年経った今、暮らしの中で実際に実感できません。「子ども・若者育成支援推進大綱というのができて、私はこの部分でとても助けてもらった・恩恵を受けた」というのが私の周りの友人にもなく、どうなっているんだろうとも感じました。（男性/18歳/学生）
- 「その通り」という事がまとめられているが、この通り実行できるかは怪しい。適当にHPに資料をアップロードしておくだけでなく、SNS上などの目に入りやすい所での定期報告を交えて、推進して欲しい（男性/22歳/正社員・正職員）

内容のバランス

- 子供の孤独防止からグローバル人材育成までいろいろと詰め込まれているので、雑多としている印象を受けた。というのも、法の主目的は「最低限の」子供の成長環境整備にあると思われるところ「創造的な未来を切り拓く子供・若者の応援」はその趣旨から外れている印象を受けるからである。取り組むべき事項は多種にわたってもいいと思うが、それぞれの関係性や優先順位を明示したらどうかと思う。（男性/25歳/学生）
- 不思議に思ったこととしては、社会生活を送るのが困難な人への対策方針などはかなり充実している印象を受けるが、逆に周りよりも能力が比較的高い人への支援は「創造的な未来を切り拓く子供・若者の応援」くらいしか見受けられなかった。アメリカのブッシュ政権のNo Child Left Behind Actのように、勉強のできない子供の支援に力を入れた結果、優秀な子供への支援が行き届かなくなってしまったなどのことにならないか懸念する。（男性/16歳/高校生）
- 「子供・若者育成」とあるが、困難を有する者への支援が中心になっているように感じました。子供・若者期は環境の影響が大きく、また自身も思春期があるなど日々状況が変化すると思います。今日困ったことがなくても、明日には虐めにあって悩んでいるかもしれません。困難さに着目しすぎることで状況の変化に柔軟に対応することが難しくなるのではと疑問に思いました。（女性/29歳/正社員・正職員）
- 若者支援の中で、引きこもりなどの若者への支援が必要なことはわかるが、それ以外の若者支援についても明言してほしい。（女性/22歳/学生）

不十分と感じる点など

- 国ができることはすべてやっている。というように感じた。しかし、貧困面に関してはあまり、意見を拾っていないように感じた。子どもの貧困はかなり両親の影響によるものが多いことから、育児放棄に近い親や、家庭にお金を出さない親などをなんとか見つける方法を考えなくては子どもの健やかな育成は困難ではないかと思った。（男性/21歳/学生）
- 学校だけの支援ではなく、地域、NPOなど全体で支援していくということが書いてあり、それを国民全体が理解できるようになりたいと感じた。項目ごとに取り組むことが理解できたが、それら全体がつながりを持ち、目的に進んでいくというのが分かりにくく感じた。（女性/30歳/正社員・正職員）
- 初めて子供・若者育成支援推進法及び大綱を知ったが大変興味深かった。学力の向上についての施策として、アクティブ・ラーニングの視点に立った学びの推進などを行う。とあったが私の高校で行われている授業はアクティブ・ラーニングとは名ばかりで考えを話し合うのではなく答え合わせだけを行っている状況である。授業中答え合わせのためだけの話し合いが増えるのは時間の無駄に思ってしまうため、アクティブ・ラーニングを推進するのであれば名ばかりではないアクティブ・ラーニングの視点に立った授業を行えるような方法の導入を具体的な施策として頂きたいと考えた。（女性/17歳/高校生）
- たしかに政府は子供・若者支援に対して取り組みを「ある程度」は行っているとは知れた。しかし、こうした取り組みが知られていないという時点であり効果が生まれていないことへの何よりの証左だと考える。（男性/26歳/学生）

納得、共感した点

- とても詳しく、色々な事柄について触れてあって、これが全部達成されたら相当良い世の中になるだろうなと感じた。「ここが今の課題かな」と思うところは漏れなく含まれていたと思う。(女性/17歳/高校生)
- 子供や若者育成支援に関わる課題は多方面にわたっており、これらの課題を解決していくためには、さまざまな施策を組み合わせる必要性があると感じられました。ここで挙げられている課題を解決することは、より良い日本社会を実現することにつながるはずであり、非常に納得できるものでした。この課題の中でも、とりわけ、ワークライフバランスの推進については、もっと重要視されるべきであると思います。長時間労働は長きにわたり日本の課題であり続けており、官公庁における残業も含め、この悪弊は日本社会に深く根付いています。労働時間の減少は、労働者が家族と共に過ごす時間が増加することも意味するため、子供の成長に良い影響をもたらすはずでです。(男性/19歳/学生)
- 今まで自分が子供・若者育成支援推進大綱の方針で、育成支援を受けていたという意識があまりなく過ごしてきました。大綱を読んで、重点課題から具体的な施策が定められていることを知り、学生生活を思い返してみると細かな育成支援が行われていたんだと気づきました。子供・若者に関わる問題は、家庭・地域社会・情報通信・雇用など環境面に加え、虐待・いじめ・不登校など精神的・身体的な面も絡み合い複雑化してきていることが理解できました。(女性/20歳/学生)
- 特に家庭の面で、親が不安や負担を抱えやすい現状にあるという問題は身近に感じるので、家庭内ではなく社会全体で子育てを助け合う環境づくりが必要という点が納得できました。また、具体的にどのような方針があり、施策をしているのかが分かりやすく書かれていたので私のような何も分からない学生でも理解できました。(女性/20歳/学生)
- 児童虐待に遭っている児童を救う施策の所は、特に納得した点です。親は子供を選べないと言いますがそれは子供にとっても同じことで、しかも精神的にも身体的にも金銭的にも、子供は親がいないと生きていけないと思っています。そのような環境の中で子供が虐待に遭っている場合、外部の介入がないと状態は絶対に改善しないと思います。だから、児童虐待対策は取り組むべき必須の事柄だと思い、特に共感できたのだと思います。(女性/24歳/学生)
- 社会環境の整備の項目が1番自分の中で「これこれ！」と共感したところです。やはり子供・若者が成長する際に一番関わってくるのは環境だと思っています。近所の人との交流や自治体での結束というものが薄れてきている現代なので、やはり地域の意識を変えるだけで大きく若者を取り巻く環境は変わっていくのではと思います。(女性/17歳/高校生)
- 最も納得した点は、地域の活性化や国際交流の場を増やすなどこれからの社会を担う私達に必要な力を養うための施策だ。例えば、現在では地域内に数多くの外国人が生活しているのを目にする。しかし、相互理解の不足などから、近隣住民との関係が上手くいっていないケースも多い。そのようなグローバル化や、その他の地域の課題に適応していかなければならないこれからの社会は、既存の概念では対応不可能なことが多く発生すると考えられる。(女性/18歳/高校生)
- グローバル化に対しての支援をしてくれるのはとてもいいと思いました。インターネットの適切な使い方の中にSNSへの対策はあるのかなって思いました。(男性/15歳/中学生)
- このような大綱が存在することを初めて知った。日本ではグローバル人材が他国と比べて育ちづらいと聞くので、重点課題の5点目が特に重要と感じた。(女性/25歳/正社員・正職員)

驚いた点など

- 普段の生活でも関わりのある勉強などだけでなくいじめなど、子供や若者についての詳しいところまで考えられていて少し驚きました。しかし、ネットいじめについてが少しわかりにくかったです。（男性/17歳/高校生）
- 「子供・若者育成支援推進大綱」という存在自体を知らなかったのので、初めてこのような取り組みを行っていることを知って驚いた。特に、日本特有の内在的ないじめが子供を不登校にさせている事実に対して即した施策が考えられていてすごいと思った。（男性/17歳/高校生）
- 現代の社会問題に絡めた教育、政策を宣言していて、子供や若者のために本気で考えたんだな、と思いました。また、日本では遅れているという性教育や、若年化している犯罪など、真正面から取り組もうとする姿も大事だなと思いました。ただ、「総合的な政策」などと、少し簡単な言葉で片づけているのは気になりました。とにかく、35ページもかけてこんなにも多く子供や若者に向けた取り組みをやっているのはすごいことだし、有り難いです。（女性/16歳/高校生）
- 出産や妊娠、育児についての情報提供を充実させることはとても良いことだと思う。実際に親ではない人からお話を聞ける機会などがあったらいいと思った。（女性/14歳/中学生）
- 子供・若者への支援を考えようとしていることが伝わった。私は大学生であるため、若者への就労支援には興味を持った。確かに新卒で入職して合わなかった場合、特に資格がなければ、正社員としての入職は厳しいことは想像できる。大学卒業は当たり前になりつつあり、一度失敗したら、非正規で働かざるを得ない。そうした若者への支援が考えられているのはよいと思った。大綱で「きめ細やかな支援」という言葉が何度も使われていることで期待感が高まった。（女性/21歳/学生）
- 学生時代参加した薬物乱用防止講演会や性の講演会、地域のお祭りへの参加や小学生の時の夏休みのラジオ体操、自治体での運動会参加などに対し、なぜ参加しないといけないのか、なぜこういうものがあるのかと疑問に思っていました。また、参加した際に必ずアンケートを提出しないといけないことにも疑問を持っていました。しかし、「子供・若者育成支援推進大綱」を読み、これらに参加する理由には子供・若者の課題があり、支援活動の一部だったのだと納得することができました。（女性/22歳/パート・アルバイト等）
- 情報通信環境に着目することは素晴らしいと思います。特に現在ではオンラインが様々な面で活用されているので、より多くの人が利用できるようになることが望ましいです。（女性/29歳/学生）

3 子供・若者が悩んでいること

Q 4-1 あなた自身も含め、子供・若者は、今どんなことで悩んだり、困ったりしていると思いますか。詳しく教えてください。（自由記述）

【回答例】

家庭

- ・ 親からの様々な圧力、社会の矛盾、自己(価値観)の否定、差別... などなど。（女性/16歳/高校生）
- ・ 家庭環境が盤石でない子どもは愛情不足となり、不安定な状態となっている。その不安定な状態が引きこもりや不登校等に繋がってしまう環境があると思う（男性/30歳/正社員・正職員）
- ・ 今の時代は親と子供が一緒にいる時間が少ないと思う。そのため、両親に悩みを相談できなかつたり、抱え込んでしまうことが多いと感じる。（女性/19歳/学生）
- ・ 親の共働きにより、子供と親とのコミュニケーションが少なくなっています。だからこそ忙しい親に気を遣って学校での様子などを話すことができず、思い詰めてしまうという子供も少なくないと思います。（女性/20歳/学生）
- ・ 家に長時間いるストレス、携帯を長時間使用し不眠や人間関係のトラブルで悩まされている。（女性/20歳/学生）
- ・ 家族との距離感（在宅勤務導入による家族間のトラブルなど）（女性/18歳/高校生）
- ・ 一人っ子や兄弟の少ない子どもが多くなったことと、核家族化が進んだためか、親の過度の期待にこたえきれないとか、すれ違いが起きている人が自分も含めて多いと思う。（女性/24歳/学生）
- ・ コロナで親の収入が減ったため、進学先を変えざるをえなくなりました。勉強したことない親に「こんな検定すら簡単に取れないのか」と言われる。人を褒めて伸ばすことを知らない中間層がいる。（女性/18歳/高校生）
- ・ 親との関係や就職や進学といったキャリア面で悩んでいる。特にキャリア面では親の資金を借りなければいけない時もあるので親をうまく説得するのに悩んでいる。（女性/23歳/学生）

学校

- ・ 家庭事情が複雑な子が多いような気がします。友人たちは知っていても、先生方は知らず知っていても特に対処はしない感じです。いじめなども発展して、実害が出たら動く感じです。実際に不登校になった友人も先生が不登校になってから何度か訪ねてきたが初期の段階で確実に気づいたであろうに対処してくれなかった時点でもう信用できなかった、と語っていました。（女性/14歳/中学生）
- ・ 私は、過去にいじめを受け、3ヶ月ほど不登校を経験した。今でも友達の些細な態度にビクビクしたり、ふとした時にフラッシュバックしたりすることに悩んでいる。いじめは収まれば良いという問題ではない。（女性/13歳/中学生）
- ・ 地元の小学校・中学校は「公立」であるため、さまざまな背景や考え方を持った生徒が集まってきている。そのため、勉強に意欲的に取り組む子・そうでない子との間に考え方・能力の差が生まれてきてしまったり、また考え方の違いから生まれるいじめやいじり等の問題も生まれてきてしまう。こういった問題は、ネットでのトラブルや自殺などの問題にもつながりかねない。（女性/14歳/中学生）
- ・ 睡眠時間が少なく眠たい。勉強についていけない。いじめられ、スクールカウンセラーに行っても改善されていない。受験方式が変わり、漠然とした不安でいつも勉強に焦りを感じている。（女性/14歳/中学生）
- ・ 教育改革で、大学受験などのときに、「主体性のある人」であることなどを求められますが、具体的にどんな行動をすれば良いのか、また、どうして最近になってよく耳にするようになったのか、が分からず悩んでいると思います。（女性/17歳/高校生）
- ・ コロナのせいで毎日マスクをつけて学校に行かなきゃいけないのが苦痛。グループ討議もあまりないのでつまらない。学校自体が苦痛。行けない。（男性/13歳/中学生）

学校

- 学校での授業で、クラスの大半は塾に行っているため、先生は全ての生徒が分かっていると思い授業を進めていってしまう。私は授業の予習はするが塾に行っていないため、いきなり問題を解くとき困ることが多い。(女性/15歳/中学生)
- 学校の授業の先生間の落差がひどい。特に、私は文系の発展クラスで、難関大学を目指しているのに、大切な国語の先生が非常にわかりにくいし、模範解答すら言ってくれない。先生にもっとこうして欲しいと言いたいけど、怒られたり成績を下げられそうで何も言えない。(女性/16歳/高校生)
- 新しい共通テストに対する不安や、3ヶ月の自粛期間での勉強に対する不安、コロナウイルスでの入試の動向などの不安でストレスが溜まっています。しかし、学校に来るカウンセラーさんは週に一回のみで、常に予約が満杯で予約するのが困難な状況です。(女性/18歳/高校生)
- 考えることもなく、当たり前のように「学力」競争に駆られているように感じ、それが相互のプレッシャーや本来一人一人がもつ多様な力を発揮できずにいる。(男性/30歳/正社員・正職員)
- 私が中高校生の頃は、進路の件で親や担任に相談するしか方法がなかった。親は自身の仕事のみ詳しく、担任は仕事や職業、学問について、特別詳しいわけではなかった。そのため、ほとんど私自身で情報収集し、迷い・戸惑いを抱えながら進路選択せざるを得ない状況だった。(男性/27歳/学生)
- 私の周りの高校生の一番の悩みは今後のキャリアです。自分が将来何をしたいのかが分からず、大学進学を目指すもどの学問を専攻するのなか々決まりません。日本の多くの生徒は、普通科高校に通います。そこまでは、予め社会の風潮としてのレールのようなものが決まっていて、自分の将来などを考えて選択することが殆どありません。(女性/18歳/高校生)
- 自分は生活面というよりも、進路などのキャリアに関する情報やキャリアを形成していく為の教育が不足していたかのように思えます。学生の思う職業観というのは、すごく幅が狭く、かつメジャーな職業に偏る傾向がある。職業の幅が非常に広い現在では、より職業観も広く持つことが必要である為、様々な職種や業界を知る機会が必要だったと感じている。(男性/23歳/学生)

- コロナ禍という状況を前提にするのであれば、特に大学生は、授業が基本的にはオンラインで行われており、直接的なコミュニケーションが大きく欠如した状態にあります。オンライン授業ができる環境にあるかないかという違いだけで、中高生が普通に通学しているのに、なぜ大学生はキャンパスで授業を受けられないのかという点において、多くの大学生が悩みやストレスを抱えているのではないかと思います。(男性/19歳/学生)
- 大学生としては、コロナ禍で依然としてほとんどオンラインで授業が行われており従来のように課外活動が行えないため、同世代との社会的繋がりが希薄になっていることに困っている。そのような中でSNSが交友関係を築き保ち続けるための唯一の手段となっており、トラブルが多発している。友人の中には、顔の見えないやりとりで誤解が生じた結果ネット上で集団的に無視されてしまったり、そもそもSNSをあまり使用しないために他の学生との間に溝があるように感じてしまったりしている人が存在している。(女性/21歳/学生)

地域

- 地域との交流の希薄化により、近所の人と話す機会も減っている人が多いと感じている。それにより、何気ない会話の中で、自分の気持ちを言う場が相乗して減っているのではないかと。(女性/25歳/正社員・正職員)
- 学校、家庭以外の居場所がないこと(女性/19歳/学生)
- 悩んだり、困っていることは、人とのつながりがなくなっていることだ。特に地域住民との交流する場として自治会が主催する行事等が減り、地域の幅広い年齢の人と話す機会が若者や子供は少ない。(女性/20歳/学生)
- 相談する相手がいないことが問題であると思う。実際にDVや虐待死事例においても助けを求めた結果、それが大人側や近い人間から加害者に漏れ本人を追い込むケースがみられており、安心して相談する場所や人が地域の中に存在していないこと自体が課題であるように思う。(男性/25歳/正社員・正職員)

ネット空間

- SNSでの見えないところでのイジメや、SNSで学校の外でも友達と繋がらなくてはならない状況に悩んでいる人は多いと思う。(女性/21歳/学生)
- 現在はSNSも発達し、情報が溢れている中でやはり誹謗中傷が多いのではないかと思います。実際私自身も、中学の頃趣味でブログを書いていましたが、同級生に誹謗中傷の内容でコメントを荒らされSNSをするのが怖くなった経験があります。(女性/22歳/学生)
- ネット社会の急速な普及により、ネットいじめの横行が問題であるように思う。自粛が多く、学校などの目が届かないところにいる時間が増えることで発見できるチャンスが減っている。(女性/21歳/学生)
- インターネット上と、実際に会うことのコミュニケーションのギャップ、日本人特有の相手を思いやる心を持って察するとか、忖度するとか、気を使うことっていう経験が減っているなって思います。相手の表情を見ないからどこまで言うとうなるかという想像力や、これをやったら大変なことになるとかが分からない、責任を負うということが匿名化の流れで難しくなっていると感じています。(女性/22歳/学生)
- 現代ではSNSなどを通じて、顔や声を介さないコミュニケーションが主流となりつつある。そのため、ちょっとした言葉の解釈の違いから人間関係が悪化してしまうこともある。そのため、この言葉を相手に送信しても解釈の違いが生まれまいだろうか、また、送られてきた言葉はどのような心情の上での発言なのかなどが見えないため、相手からどう見られるかが不安で悩むことがある。私自身、周りからどう見られるかが不安で、自分の意見を言えないということは多く、それに悩む若者は多いのではないか。(女性/18歳/高校生)
- SNSでのトラブルが圧倒的に多いと思います。TikTok などを見ていても、心無いコメントに溢れるコメント欄など凶暴化し、歯止めの聞かないものになっていると思います。(女性/19歳/学生)

就業

- 将来どんな職に就くことができるか、希望の職に就けるか。もしくは、希望の職が見つからないことに関しても悩んでいる。夢があったとしても、現実的に考えて、なるのに大変だ、なってからも大変だ、ということを知ると、やっぱりいいかとあきらめてしまったり、モチベーションが低くなってしまふ。(女性/26歳/学生)
- 就職について考える時に、「やりたいことがない」と言っている友人はとても多かった。20年くらいしか生きていない中で将来の夢をはっきり持つことは難しいし、持っていたからといってその道に進めるとは限らない。(女性/23歳/学生)
- 高校や大学選びの際にキャリアを考えて選ぶというよりも偏差値などを基準に選ぶことが多いので、就職活動の時に急に考え始めて悩む人が多いように感じる。(女性/24歳/学生)
- 少子化で大学等に進学することは普通にできるが、自分に合う就職先が見つからないことに悩んでいる人が多いのではないだろうか。(女性/30歳/パート・アルバイト等)
- コロナによる不景気や経済の停滞を感じる今、就職先やその先のライフプラン(貯金、結婚、子育て等)に不安を感じている。学生のうちは、勉強もしつつ自分の好きなことや趣味にお金を使いたいと思っていたが、将来を見据えてもっとバイトして貯金した方がいいのかとか、特別なスキルを身につけないと就職できないのではないかなどの不安を感じるが増えてきた。(女性/21歳/学生)
- 今はコロナで就職が不透明ですが、コロナがなかったとしても将来への見通しが立たないです。終身雇用は無くなり自分の才能でどんな事でもできるらしいですが、実際転職するのは楽なことではないですし、非正規になってしまう可能性もあり、収入も増えていくという保証はありません。そんな中で家を買って、子供を育てるとするのは将来への不安から難しいと思います。(男性/20歳/学生)
- 特に今の大学生は、アフターコロナの時代において、どう働けばよいのかということに不安を感じていると思います。(女性/21歳/学生)
- 自分も含め、自分の本来就きたい職業に就けない人が多いと思う。学力や性質のせいで2番手、3番手に考えていた職に就き、そこでやる気を出せなくて困っている人が多いのではないかと思う。(女性/25歳/正社員・正職員)

教育費・生活費

- もっと高いレベルの教育を受けたいのに、学費が足りないなどの理由で諦めざるを得ない。奨学金をせっかくもらって大学に進学したのに、結局勉強もろくにせず、就職活動だけ頑張ってるような人を知ってるのに、自分は勉強する間も惜しんでお金を稼がなければいけない。このような状況に困ってる人は多いと思う。(男性/16歳/高校生)
- コロナで家計が急変したり、バイトがなかなか出来なかったりして学費等の支払いや生活費がギリギリな状態なこと。(女性/19歳/学生)
- 大学卒業後の奨学金返済。日々の生活と返済で生活に余裕がなくなってしまうこと。(女性/24歳/学生)
- 貧困に困っている子供が多いように感じる。特にひとり親家庭で貧困に苦しんでいる親子が多くなるとかするべきだと思う。(男性/19歳/学生)
- お金が大きいです。病院に行くのもワクチンを接種するのもお金がいるので。(男性/21歳/学生)
- 職に就いていても所得が低くて生活するだけで精一杯の人が多いいと思います。そんな中で少子高齢化社会に歯止めをかけるなんて無理な話です。(男性/29歳/正社員・正職員)
- これから先の人生を考えた時に、経済的な不安はとてもある。結婚して子育てをしたいと考えた時に、パートナーも一緒に、と思うが現実的に考えてそれでは暮らしていけないのではないかという漠然とした不安がある。(女性/23歳/学生)
- 少子高齢化が進み、年金や保険などがどうなるのか、漠然とした社会への不安がある。(女性/21歳/学生)
- 私が悩んでいる事の一つに、自分が高齢者になった時に日本の医療制度がどうなっているか、ということがあります。これからの日本は高齢者の割合が増える一方で、働ける世代の人口は減少傾向にあると聞きます。それならば、自分の老後は自分で準備しておかないといけないのではという気がしてきています。その準備をする余力が自分にあるのかという心配があります。(女性/24歳/学生)

結婚・子育て

- 私の周りは、社会人になっていたり大学院へ進学していますが、働いたり家庭を持つことをできれば避けたい人が多いです。もちろん子供を産んでいる人もいますが、それは良いパートナーに出会ったことの結果に過ぎず、出会っていない、探していない人にとっては避けたい事柄として話されがちです。(女性/29歳/正社員・正職員)
- 結婚の前に出会いがない、お金がないで結婚出来ないと嘆いている人が多いように感じる。(女性/27歳/正社員・正職員)
- 社会人になると出会いが減るため、結婚できるのだろうか、子ども生まれるのだろうか。社会人となり、新しい友達を作るのが難しい...境遇もどんどん変わるから、学生時代の友だちとも会う回数が減る...余計人間関係が希薄になって、孤独を感じる人が増えていると思う(男性/28歳/正社員・正職員)
- 雇用が不安定であったり、低賃金であることによって結婚や子育てに前向きになれていないと思います。(女性/29歳/学生)

自己の在り方

- 自己肯定感を自分の力で高めることができないことや気持ちの浮き沈みが激しく、自分自身でコントロールができないことが自身の悩みです。(女性/22歳/パート・アルバイト等)
- 自分の存在意義に悩んでいる子、進学のお金やコロナの不安、教育格差(女性/17歳/高校生)
- アンジェラ・アキさんの「手紙」の歌詞のように、自分が何をしたいか分からず、このままで良いのか迷い、自信がないと思います。(女性/20歳/学生)
- 生きがいのなさ。自分の場合は一応好きこと(趣味)がある上、特に勉強との両立が難しい訳では無いが、「自分は果たして何をしているのだろうか、こんなことをしていていいのだろうか」などと考え苦悩している。(男性/15歳/中学生)
- 個性がある人は、例えば性的マイノリティの人は、皆と一緒に出来ないことで、まだ悩んでいるのではと思う。逆に、個性がないと思っている人は、それも自分を肯定できずに、悩んでいると思う。(女性/26歳/正社員・正職員)
- 昔ながらのしきたりや考えに縛られている感じがして、動きがとりにくい。多様性といいながら、周りと同じでなければいけないことが多く生きづらい。(女性/30歳/正社員・正職員)

社会の在り方等

- 学歴社会、収入重視、容姿重視、一度道を踏み外すと戻りにくい。(女性/24歳/学生)
- 自身の努力が水泡に期してしまうかもしれないというような未来への漠然とした不安に困っていると思われる。人口動態、年金制度、経済予測など、大人たちが未来を語る論調に明るいものが少なく社会の閉塞感を子どもたちに感じさせている。(男性/25歳/正社員・正職員)
- いじめ、奨学金、SNS問題、最終的には、「将来への漠然とした不安感」だと思う。将来に期待感が持てないから、若者の自殺率が高くなる。いじめがあっても被害者側が弱者のままで、金銭的に貧しくて勉強できず成績が悪くとも「努力不足」と片付けられ、常にSNSに囚われて生きている。このような状態でどうやって将来に希望を持つてというのか。大人は重い責任を感じるべき。(男性/26歳/学生)
- 自分は正しいことを行っているはずなのに、大人に理解してもらえない。何を言っても子どもの絵空事としてしかとらえてもらえない。批判するときとはことん晒し者にする。私が子どもの頃は、そんな風潮を疑問に思っていました。(男性/28歳/正社員・正職員)

4 子供・若者の悩みに対し、自分たちで取り組めること

Q 4-2 子供・若者が今悩んだり、困ったりしていることに対し、あなた自身やまわりの人たちで取り組めることは何か、詳しく教えてください。（自由記述）

【回答例】

相談

- 自分の周りに何か悩んでいる人がいたら、相談にのり、一緒に考えてあげることです。（男性/14歳/中学生）
- 私自身が悩みの当事者であるので、周りの似たような人達と話し合ったり、問題に感じていることを直接家族とはかかわりの無い大人に相談してみたりしている。（女性/24歳/学生）
- 周りの人に相談すること。挫折した例などをなるべく見ないほうがいい。夢のある大人、夢がかなった大人、キラキラした大人を見たい。（女性/26歳/学生）
- 私は周囲の子どもや若者が進路に悩んでいる際には相談に乗ったり、あるいは知人のキャリアカウンセラーを紹介したりするなど、少しでも周囲の人々の力になれるよう力を貸していきたい。（男性/27歳/学生）
- 友達に不安や悩みの相談に乗ったりしてもらっただけで心配事が軽くなると思う。（女性/15歳/中学生）
- 自分もそうだが、職場の雰囲気慣れずに困っている人が多いと思う。自分一人で抱え込まず、同僚はもちろん先輩や上司などに気軽に相談できるような気持ちでいたいと思う。（女性/30歳/パート・アルバイト等）
- 悩んでいる子供や若者の話をしっかりと聞き、変わった様子がないか見守る・悩みを相談し、解決につながるような行政機関を紹介する（女性/18歳/高校生）
- 話を聞いてあげることや、それ専門のソーシャルワーカーやカウンセラーさんの所へ行くよう促す。（女性/18歳/高校生）
- イジメの相談場所に悩んでいる人を繋ぐ。（女性/21歳/学生）
- 自分自身と向きあう手助けをすることだと思います。例えば、相手に自分の経験を話すことや自身では助けられない場合は、専門の相談員を紹介することも助けになると思うからです。友達に相談した時に、友達の経験を聞いてモヤモヤしていた心がスッキリした経験があります。（女性/22歳/パート・アルバイト等）
- 悩んでいる人に耳を傾け、場合によっては必要な機関の受診を進めたりすること。自らが知っている知識に関しては他の人々にも還元すること。（男性/19歳/学生）
- 少し歳の近い人のアドバイスがあるといいなと思います。（男性/13歳/中学生）
- 話を聞き、一緒になって考えてあげたり、どう対処するか友人どうしで連携していく。（女性/14歳/中学生）
- 解決策を提示するのではなく話をゆっくり少しづつ聞いてあげる（女性/14歳/中学生）
- 気になったときに相談できるように話しかけやすい雰囲気を作っておく（女性/14歳/中学生）
- 第一に悩みや困りごとを自分一人で抱え込まないような環境づくりをすることが大事だと思う。例えば相談しやすいような環境にするなど。（男性/19歳/学生）
- 身近な地域の相談役として信頼関係を築き、子どもたちの心身ともに健康的な成長を後押しする存在になることだと思う（男性/30歳/正社員・正職員）

共感・寄り添い

- ・私自身が出来ることは、自分の友達が孤立していたり、困っていたら、程よい距離感で気にかけてあげることだと思います。また、話を聞いてあげることや、必要であれば自分の視点からの意見を伝えることも大切だと思います。（女性/21歳/学生）
- ・困っている人、本人が自ら自己決定ができるように共感する。（女性/14歳/中学生）
- ・「グリーンケア」を実践することだと考える。グリーンケアの第一歩であるまず、悩みに寄り添うことから始めたい。（男性/18歳/高校生）
- ・友達同士で相談して共感が得られると少し気持ちが軽くなる。（女性/18歳/高校生）
- ・お互い相談したり励ましあったりし、出来ることは協力し合うことだと思います。（女性/18歳/高校生）
- ・大きなことはできないが、悩みを共有し合うことは大切だと思う。悩みを抱え込まず、話し合える場があることだけでも全然違うと思う。（女性/25歳/正社員・正職員）
- ・悩みや困っていることを相談してくれた場合は、それを受け入れ、否定せず、理解をしてあげる。それに伴い、アドバイスをあげるなどして、解決する術を共に模索していくこと。自分自身、相談にのってもらい、気分が軽くなったり、新たな視点からその悩みをみることができるようになったことがある。また、辛そうにしている、打ち明けにくそうなのであれば、寄り添ってあげるだけでも良いのではないかと。誰かが、自分の傍にいてくれる、1人ではないと感じ、安心を促すことが可能であると考えます。（女性/18歳/高校生）

声かけ・見守り

- ・「何かあったらいつでも言ってね」と友達に声掛けをする。相談できる人を見つける。無理に嫌なことをしないようにできる範囲で避ける（女性/14歳/中学生）
- ・より多くの方が自分に相談できるように私からいろんな人に話しかけることが1番の対策になる。（女性/18歳/高校生）
- ・地域の人、保護者、学校、子供同士で声掛けをしたりして、辛い思いをしている子供を支援する。（女性/16歳/高校生）
- ・自分の住む地域内でひとりである若者に積極的に声をかける。（女性/25歳/パート・アルバイト等）
- ・家族のみが子供達に接するという状況をなくすために、近隣の方が子供を気にかけてあげたり、親戚なども子供達を気にかけてこまめに連絡をとることが大切。（女性/20歳/学生）
- ・私自身は、仕事以外に、子どもも所属する団体に所属していることもあり、子どもと関わる機会があるため、困りごと、悩み事を聞ける機会は、周囲の人たちよりも多い方だと感じている。そのため、周囲の大人と一緒に、子どもたちと遊び、話し、一緒に考える時間を、私自身も設けたい。（女性/25歳/正社員・正職員）
- ・交流をすることが大事だと思います。大掛かりな事が出来なくても毎日の挨拶だったり、子供の方から声を掛けやすいように交流を進めるのが良い。（女性/17歳/高校生）
- ・なるべく多くの子供たちとの関係性を作っていくこと。あいさつなど、何気ない日常と思われる関係性について考えていくことと思う。（男性/25歳/正社員・正職員）
- ・まずは身近な友達や子供たちが何かに悩んでいないか注意深く観察して、SOSのサインを見落とさないようにしたり、話せるようであれば親身になって話を聞いてあげることが、悩んでいる本人にとっては力になる。（女性/20歳/学生）

コミュニティづくり

- 学校、家庭以外のコミュニティを作る手助けをする（女性/19歳/学生）
- 気軽に話を聞いてもらえる場所を開いたりすることも私たちが出来ることであると思います。（女性/19歳/学生）
- コミュニケーションの場を設ける（オンライン上など） 同じような状況の人たちと話して、少しでも不安を軽くすることが必要だと思う。（女性/20歳/学生）
- オンラインでの孤立を防ぐために学生同士の対話が可能な機会を作ったり、オンラインでのサークルでの飲み会などを実施するなどを取り組むことが可能だと考えられる。（男性/23歳/学生）
- SNSを通じた会話や、オンラインの講習会などを参加するなど人とコミュニケーションする。（女性/16歳/高校生）
- 今は悩んでいる人はSNSで匿名で言い合ったりしています。でも、それが根本的に悩みの解消になるとは思えませんがそういうことをしている方は多いと思います。（女性/19歳/学生）
- 気晴らしの場をオンラインで充実させていくことが良いと思う。具体的には、コロナ下でできた時間に若者が新たな芸術的趣味に取り組めるよう、たとえば英会話や他の第二外国語、書道や陶芸、生け花などの講座をオンラインで提供すると良いと思う。これらの分野に対する若者の理解の促進は、日本文化の継承やグローバル人材の育成という観点からも重要であると考えられる。（女性/21歳/学生）

地域活動

- 地域コミュニティの結束を強めること。子供を地域ぐるみで見守り、子供の視野を広げることが大切だと思う。学校と家の2点間だけでなく、外の世界に視野を広げるために、地域コミュニティを強くしたい。（女性/27歳/無業者）
- 家族だけではなく、近所の方や学校、職場などの知り合いなどにも相談しやすい環境を整える。（男性/17歳/高校生）
- 世代を通じた交流が歳を取るにつれて減っていく。いろんな年代の人と対話できることで子供たちに対して異変も気付きやすくなるし、多様な価値観を子供たちが知ることができると思う。（女性/24歳/学生）
- 親との仲も悪く、親の支援が十分に受けられていない若者と近隣家庭でコミュニケーションを取ったり見守り体制をつくる。（女性/19歳/学生）
- 地域や周囲でサポートをするというのがあるが、悩んでいる本人とうまくマッチングがいかない場合かえって悪影響のため、慎重さや依存しない取組が求められると思う。（男性/19歳/学生）

ボランティア

- 貧困の問題について、まず現状を知った上で、NPOなどが行っている草の根運動に参加することだと思う。大きな構造的問題をいきなり解決することは難しいため、現状を追認することなく、目の前の現場に手を差し伸べることが可能だと考える。（男性/21歳/学生）
- 貧困で塾に通えないこのための無料の学習塾で勉強を教えるボランティアをしている。（男性/19歳/学生）

情報収集・情報提供

- 困っている子供や若者に個別にその家庭の事情を汲み取り、進学や就職に関する情報提供する。(女性/21歳/学生)
- 既にある奨学金等の情報を広める。(男性/16歳/高校生)
- 奨学金などの手段を探す(女性/17歳/高校生)
- 話を聞くこと、話を聞いてくれる場所があるという情報提供をすること。(女性/25歳/パート・アルバイト等)
- 就職活動を終えたので、大学3年生に向け就職活動をどのようにしていくか伝える場をつくる。(女性/22歳/学生)
- 自分が知っている情報を交換し合って周りの状況に合わせられるようにする。(男性/17歳/高校生)
- 情報収集を自分たちでもすること。困ったことや迷ったことは1人で抱えず周りの友達とか家族とか先生に相談すること。(女性/17歳/高校生)
- ニュースやインターネットなどを併用して見て、どれが正しい情報なのか判断する力をつけて、誤った情報を拡散などしないように気を付けます。(女性/19歳/学生)
- 悩みに関する色々な機関や団体などを検索し、利用してみる。(女性/18歳/学生)
- 困った時に相談できる場所を知ることが大事。地域のコミュニティセンターなど普段は行かない場所を把握する、存在をアピールするだけでも地域の希薄化を止められるかもしれない。(女性/18歳/高校生)

ネット対策

- スマートフォンのフィルタリング。有害情報等を閲覧できないよう遮断する仕組みを設定する。また、子供と視線を合わせ、共感し、寄り添う。(女性/20歳/学生)
- SNSのメリット・デメリットを把握して、仲間内でのルールを作ることが大切であると考え。(女性/21歳/学生)
- できる限りネットから離れること。親が厳しくいくことも重要ですが、まずは子供が外へ出たくなるような興味関心を高めるようなことがあれば良い。(男性/18歳/高校生)

自己啓発

- 職に就いてからでも独学で勉強したりビジネススクールに通ったりすることが大事だと思う。ただ、この方法も取れない人は多くいると思う。(女性/25歳/正社員・正職員)
- 勉強していると気づいた時には視野が狭くなっていて何のために勉強しているのかさえ分からなくなってしまうため、視野を広げることが大切だと思う。(男性/15歳/中学生)
- お金に関する知識について最近はyoutubeから学んでいます。いいなと思ったら、他の困っている友達にシェアしています。また、自分がどうなりたいのか、なんのためにお金を稼ぎたいのかを紙に書き出して、自分の人生の方向性を考えたりしています。(女性/22歳/正社員・正職員)
- 特に運動経験のない人は、少しトレーニングするだけで心身共に変わると思います。私は演劇を初めてから変わり、自信が持てました。(女性/20歳/学生)

その他

- 家族でいる時間を大切にされた方が良い。家族でコミュニケーションが取れる環境を作った方が良い。(女性/19歳/学生)
- 自己を見失わないこと、多様な人との交流を行うことなど。(女性/16歳/高校生)
- ワークショップやグループワークで、自分の得意な事を見つけたり、自己肯定感を高めたり、相手を理解する取り組み。(女性/18歳/高校生)
- セクシャルマイノリティや、発達障害の事などの知識を正しく持つこと。(女性/22歳/学生)
- 児童虐待について、児童に少しでも違和感があればすぐに匿名で通報すること。最近は以前より通報がやすく、児童相談所などもその児童の元へ訪問しやすい環境になりつつある気がします。(女性/24歳/学生)
- 世代間ギャップのある政策ではなく、大学、高校、中学の現役の学生たちが中心になり、プロジェクトを立ち上げるのがよい。(女性/19歳/学生)

5 子供・若者の悩みに対し、取り組んでほしいこと

Q 4-3 子供・若者が今悩んだり、困ったりしていることに対し、政府や自治体、民間団体に取り組んでほしいことは何か、詳しく教えてください。（自由記述）

【回答例】

居場所づくり

- 子どもの居場所を増やすことが、早急に必要だと思います。（男性/20歳/学生）
- こどもたちが自分を出して過ごせる居場所の設置、継続が保護者・学校以外の第三の信頼できる大人と出会うきっかけとなり、心身の安定につながると思う。（男性/30歳/正社員・正職員）
- 地域に学校と家以外の居場所があることは大事だと思います。全ての子供に学校以外の居場所がある状態にしてほしい。（女性/20歳/学生）
- 共働きが増加したからこそ家庭以外でも気軽に自分のことを話せる場を作ることだと思います。（女性/20歳/学生）
- 遊び場の増築や、外でのイベント実施（男性/18歳/高校生）
- 自宅の近くに自習できるところがない為、民間の自習室を多くしてほしい。また、Wi-Fiが使える自習室が近くにない為、Wi-Fi環境を整えてほしい。（女性/15歳/中学生）
- 子供や若者が気軽に遊んだり交流できる施設の提供（女性/16歳/高校生）
- 公民館等で勉強や話ができるようなフリースペースがより増えると、学者サポートや心を落ち着かせるためにも使えると思います。（女性/17歳/高校生）
- いろんな場作りをして欲しい。年代を超えて集まれるようなイベントや空間があれば市民同士で助け合える部分が増えると思う。（女性/24歳/学生）
- 学校や家庭など狭い社会で生きている子供や若者にとって、日頃関わっている大人とは別の大人に話を聞いてもらったり、関わったりすることは、閉鎖的な社会からときには逃げるという意味で大事だと思うので、子供や若者にとっての逃げ場があるといいと思います。（女性/21歳/学生）
- 「青少年少女向けの家出先」を確保すべき。援助交際など、性犯罪の温床にもなる。（男性/26歳/学生）
- コロナの中において、海外においては、家庭内の体罰や暴力などへのアプローチとして人気ゲームの中にSOSのキャラクターを用意し希求行動を促すとともに保護がなされた事案があったことを知った。遊びの大切さを啓発し、しっかりと子どもたちの遊びや自由な時間を保障していくことが重要と思う。また「遊び」や「参加」の中から相談や子どもにとってキーパーソンに結びつく体制などの検討などをしてほしい。（男性/25歳/正社員・正職員）

相談対応

- 悩みや困ったことに対する相談の場は増えていると感じる。しかし、その相談の場に関するチラシなどが学校で配られた場合に、要らないと感じている人が多いように感じる。私達とは関係の無い場所と、自分とは離れた存在であると認識している人が多いように感じる。現在では、いじめ等が原因の自殺が、ニュースなどでもよくみられる。それらは、誰にも相談できずに抱え込んだゆえの行動の場合が多い。いくら相談窓口があったとしても、そのような思いを抱えている人が気軽に相談できる、身近な場とは完全にはなっていないように感じる。だからこそ、本当に必要とする人のために、そのような場を身近な場であり、相談しやすい場にするための取り組みをより推進していく必要がある。（女性/25歳/パート・アルバイト等）
- 子供・若者が電話やインターネット、対面で些細なことでも気軽に話を聞いてもらえるような場を設けてほしい。また、そのような場や機会をSNS等でより積極的に周知してもらえると子供や若者も相談しやすくなる。（女性/18歳/高校生）
- もっと気軽に身近に相談できるカウンセラーや専門家が子どもの側にいるような制度があればいい。悩んだり困っている子どもにとって、自身の親や学校の先生はあまり信頼できる存在でないことは結構あると思います。（女性/21歳/学生）
- 近い人では逆に相談できないこともあるので、第三者的な意見を言ってくれるカウンセラーに、もっと気軽に頻繁に相談できるようにする。（男性/17歳/高校生）
- 知らない人に相談するのはかなり勇気がいる。学校の先生や家族、友達など身近な人に相談したい。（女性/16歳/高校生）
- 男女関係なく相談することは恥ずべきことではないと理解を深めることが必要。（女性/20歳/学生）
- 子供・若者が悩んだり、困ったりしていることに対し、悩みを明かす時間を取り入れて欲しい。（女性/22歳/パート・アルバイト等）
- 悩み事や、困りごとを話せる場があるということを、明確に提示すること。全国ダイヤルも良いかもしれないが、電話がない子どもや、勇気が出ない子どもには利用できないため、もっと身近に、気軽に利用できるものがあると良い。ちょっと楽しそうなことをしている場から入るなら、子どもでも入りやすいのではないかと。（女性/25歳/正社員・正職員）
- 若者は大人に騙されやすく、騙されて体を売られそうになる若者もいます。そういう人も気軽に相談できる場（法テラス）をより広めてほしい。（女性/19歳/学生）
- 職場の雰囲気が一番気になる点だと思うので、困ったときや悩んだときに気軽に相談できるカウンセラーのような人を多く配置したり、住んでいる地域で相談できる場所をもっと配置すべき。（女性/25歳/正社員・正職員）
- 大手の企業には職場の人間関係などに対して相談ができるアドバイザーのような存在を配置していると聞く。職場一つ一つに配置してほしいとは言わないが、そのような相談事に対処できる場所や人材を身近に置いてもらえるとうれしい。（女性/30歳/パート・アルバイト等）
- コロナの影響で自殺したり、住む所がなくなったりしている人がいる。ホットラインや住居支援や金銭面の支援の充実に取り組んでほしい。（女性/23歳/学生）
- 相談出来る機関をもっと世間に公表してほしい。ほんとに困っている時は視野が狭くなり、助けを求められる相手がいないと思うから。（女性/20歳/学生）
- 相談しやすい窓口について情報提供をしてほしい。そこでは、どんな情報が得られるのか、具体的にわかると、行きやすいかもしれない。ただ、行政の窓口となると、ハードルが高いような気がする。（女性/21歳/学生）

困難な状態にある子供・若者、家族の支援

- 貧困と虐待を防止することを最優先課題としてもらいたい。（男性/17歳/高校生）
- 病気や引きこもりなどになった時の息の長い的確な援助。（女性/24歳/学生）
- 障害のある子供や若者が抱えるストレスや経済的負担は健常者以上のものであり、重点的な支援が望ましいと考えられる。（男性/23歳/学生）
- コロナで家の問題も発見や介入がしにくくなっているが、それでも見回りや訪問などは減らさないようにして、家庭が孤立しないような他とのつながりを作る取り組みが必要と感じる。（女性/21歳/学生）
- いじめ後2年間の経過観察と、精神疾患に罹患した場合のケア。治療機関を紹介し、受診への抵抗がなくなるように適切な声かけをするなげと。精神科医、臨床心理士、保健師などが常駐する「いじめ外来」を設置する。いじめの他にも、虐待・体罰・犯罪被害に遭った方にも同様の対応ができると思う。（女性/13歳/中学生）
- 子ども食堂や学習支援などの活動をしているNPOが数多く存在している。政府にはそれらへの支援をより充実させて欲しい。資金面ではもちろんだが特に子ども食堂の場合、場所の確保に苦労していると聞く。食材や活動資金は寄付で賄えることが多いので場所の提供といった寄付などでは難しい支援を行政には期待している。（男性/19歳/学生）
- 困っている子ども、若者はSNS上に多くいると思うのでそこを監視する団体があってもいいかと思う。「死にたい」や「親が」などの投稿が見受けられるアカウントに対して公式のアカウントから相談先や逃げ道を返信する活動などはどうだろうかと思う（男性/21歳/学生）

リサーチ・ヒアリング

- 速やかな状況把握、対処をしてほしい。じっさいに困ってる人への調査を必ずしてほしい。書類だけでは現状がわからない。（女性/16歳/高校生）
- こどもや若者の話を聴くこと 実際に関わり聴いている支援者の話を聴くこと。（女性/24歳/パート・アルバイト等）
- いじめアンケートとは別に、家庭環境調査を行って欲しいです。そうすれば虐待を減らす、摘発する大事な一歩になるのではないのでしょうか。（女性/14歳/中学生）
- 困難な状況に陥っている家庭を把握して、訪問して状況を確認、支援に繋げる（女性/19歳/学生）
- 生徒また、その家族へのアンケート（家庭や学校生活における問題について）（男性/17歳/高校生）
- 定期的に悩みや不安など気軽に心の内を書けるようなアンケートをとるようにして、どういう悩みを抱えているのか把握して欲しい。学校や会社などにもアンケートをとり、不登校や会社で休みがちな人が何人いるのかも把握して欲しいそのアンケートで、多かった悩みなどの改善をしてほしい。（女性/14歳/中学生）
- 少し遠くにある、彼らがいいなぁと思っている何かの状態に辿り着くために、社会が積極的に門戸を開くこと。そのためには、何を若者たちが欲しているのか政府として「分かっていなければ」ならない。望ましい生き方の押し付けになる等という批判を恐れるのではなく、積極的に子どもたちや教育者から話を聞き、統計的に把握をし、公表する。（男性/25歳/正社員・正職員）

教育

- コロナによって仕事の仕方も多様化したように、学校での学びも多様化を考えるべき。そして、多様化することを当たり前と考えられるように国が先導すべき。(女性/21歳/学生)
- 教育の現場では時間や人手が足りず、○か×かで答えを出す場合が多いと思うが、実際の社会では答えのない問いに出会うことの方が多いと思う。子どもたちは幼くともそれぞれに考えを持っており、それを考える時間を大切にしてほしいし、その考え自体本当に大切なものであると子どもたちが思えるような接し方をしてほしい。(女性/23歳/学生)
- キャリア教育に関しては、地域の民間企業などの協力が必要不可欠です。多くの企業にとって、1週間などの短期で中学生が来るのは業務の妨げになると考えられているかもしれませんが、もう少し協力的になってもらえるように、政府が斡旋していけるといいと思います。(女性/18歳/高校生)
- 学生がつながりにくい様々な分野の職業人と繋がりを持てる機会を講演・ワークショップといった、キャリア教育の中に取り入れて欲しいです。(男性/23歳/学生)
- テレビやインターネット、新聞等のメディアやSNSの情報の判断力をつける授業や場所もないため、なにかそのようなサイトや授業があるといいと思いました。(女性/19歳/学生)
- 小学校から性や命の大切さを子供・若者にしっかりと教える場を設けて欲しいです。(女性/20歳/学生)
- お金に関する知識を小学生のころからもっと教えてほしいです。私の周りでは、お金の教育はそれぞれの家庭に任されているように感じます。働き始めてから、税金についてもっと勉強しておけばよかった、学生時代から浪費しないでお金をためておけばよかったと後悔しました。(女性/22歳/正社員・正職員)
- もっと政策や社会人において必要なマナー、税金、お金に関する学習の場を設けて欲しい。(女性/21歳/学生)

- 大学生は高校生までと異なり「子供」と「大人(=社会人)」の狭間でアイデンティティが揺れ動いている。一人暮らしなど自立の道を歩み始める人もいるが、まだまだ助けを必要としているにもかかわらず社会からは「大人であれ」という期待をかけられている。そのような弱さを抱える存在にとって学校や地域など身近に頼れる場所からのアプローチは重要。(女性/21歳/学生)

教育費など子供・若者への投資

- 教育資金の確保(女性/17歳/高校生)
- 奨学金の拡充(男性/21歳/学生)
- 留学支援制度を充実して欲しい。(男性/18歳/学生)
- 学校教育にもっとお金をかけて欲しい。自分の高校も資金不足が深刻だと聞いている。(女性/17歳/高校生)
- 親に無理させて、大学に通うのはとてもつらい。経済的理由で大学に行くことのできない友達もとても不憫だ。(女性/21歳/学生)
- お金の問題で、高校進学、大学進学を諦めざるを得ない人もいるので経済的支援は必要だと思います。(女性/28歳/正社員・正職員)
- 高齢者向けの社会保障費を増やすのではなく、将来世代にもっと投資をして欲しい。教育の無償化・デジタル化などを推し進めてほしい。(男性/18歳/高校生)
- 将来へのお金。政策はどれもご年配のもの。選挙には行っているが、そもそも子供・若者にお金は回ってきてないと感じる。(男性/25歳/正社員・正職員)
- 先端技術や独創的な理系の学術研究費を大幅に援助して欲しい。また、ドクターを取った者を大いに活用する社会になって欲しい。(女性/24歳/正社員・正職員)

雇用・働き方

- もっと雇用の拡大など若者の支援をしてほしいです。(女性/19歳/学生)
- 就職については氷河期を作らないように、採用を考えて欲しいと思います。(女性/25歳/学生)
- 新卒ではなくても就職できる仕組み(女性/26歳/正社員・正職員)
- 就職活動や、雇用問題について取り組んでほしいです。一部の非正規の給料などでは正直生きて行けないと思います。非正規の是正、労働環境の改善についてもっと働きかけて欲しいと思っています。(男性/20歳/学生)
- 非正規雇用が多いため、収入が安定せず未来が見通せないから子どもを産むのを諦める、少子化になるという現象が起きているので若い人の正規雇用を増やして安定的な生活ができるようにしてほしい。(女性/23歳/学生)(女性/23歳/学生)
- 働き方改革、子どもを育てやすい環境の整備(特に企業経営陣の意識改革、テレワークや時短勤務、男女格差の撤廃)、ICTの整備など。定年延長もよいが、若手の成長を阻害し、老害とならないような策を考えて欲しいです。(女性/19歳/学生)
- 就労支援機関に行くことへ抵抗感がある人もいるので、もっとお洒落なマッチング場所が日常にあれば良いのと思います。また、キャリアカウンセラーの中には古い考え方(女性なら事務職、仕事なのだから選んではいけない、自己責任)の人がまだまだ多いと思います。政府や自治体へは、就労実績を上げるための就労支援ではなく、個々のライフプランを相談できるようなキャリアカウンセラーの一層の充実へと評価内容を変えてほしい。(女性/29歳/正社員・正職員)

その他

- 子ども・若者の存在を、親や家庭の付属物と見るのではなく、子どもへ直接支援という姿勢が欲しい。(男性/18歳/学生)
- 子どもだけではどうにもしにくい親世代への啓発運動や親子の付き合い方ワークショップのようなものがあれば、やってほしいなと思う。(女性/24歳/学生)
- 子供がネットトラブルに巻きこまれないよう、ネット上で怪しい人物を取り締まるなどしてほしい。(女性/20歳/学生)
- オンライン勉強会、オンライン講習会などオンラインを使った子供、若者向けイベントを開催してほしい。(女性/16歳/高校生)
- 若者議会や地方公共団体レベルで若者の意見交換の場を作ってほしい。(男性/17歳/高校生)
- 過疎・過密の問題を解消し、こういった環境・地域に住んでいても子供・若者が不自由なく成長・支援してもらえる地域づくりを実現してほしい。(女性/14歳/中学生)
- 中山間地域に住む高校生は学力は上がりず、遊ぶ場所もない。それどころかバスがいつ減らされるかヒヤヒヤしている。すみにくい町だから交通機関ぐらいどうにかしてほしい。(女性/18歳/高校生)
- 政府や自治体がまず、セクシャルマイノリティや、発達障害の事などの知識をちゃんと持って欲しい。勉強されている方もいらっしゃると思うのですが、そうではない方の発言や対応も見られるので、そういう対応とかは子供たちもしっかり見ていて、子供たちの考え方に繋がってしまう気がします。(女性/22歳/学生)
- せっかく大綱があるので、もっと多くの国民が認知できるような効果的な取り組みを行って欲しい。(女性/25歳/正社員・正職員)

6 大綱見直しへのアイデア

Q5 「子供・若者育成支援推進大綱」をより良いものへと見直すために、追加したほうがいい内容、修正したほうがいい内容など、あなたのアイデアを詳しく教えてください。（自由記述）

【回答例】

大綱の編集方針

- あまりにもページが多すぎます。もっと簡潔化を望みます。1枚にまとめられるものはまとめるべき。（女性/19歳/学生）
- より多くの人に内容を理解してもらえよう、もう少し見やすく、文字をできるだけ少なくした資料にしてもらいたいと思った。（女性/20歳/学生）
- 追加とかせずにもっと簡素化したものでわかりやすく説明してほしい。文章もながながだし、PDFもごちゃごちゃでわかりづらいと思いました。（女性/21歳/学生）
- わかりやすい言葉 実際の現場に近い言葉 大綱を実際進めるために 支援者との話し合いも持っていると思うが 現場とこどもをもっとよく見る。視察では現状はわからない。（女性/24歳/パート・アルバイト等）
- 内容がぎっしりと詰まっていた見づらかったため、5つの重点課題・基本的な施策を1つひとつピックアップしてまとめることで、より見やすくなるのではないかと考えた。また、実際に活動をした内容を書くなど、体験談を入れることでより具体的な「子供・若者育成支援推進大綱」になるのではないかと考えた。（女性/20歳/学生）
- 実施例や改善例などたくさん挙げてほしい。（女性/25歳/パート・アルバイト等）
- より具体的に、どのような社会・生き方・人材を、国(社会)として育てていくのか、そしてそれは何故なのかという記載を追加した方がいいと思う。これからこうした分野が拓かれていく、こうした未来を政府は目指していく、だからこそこのような人間になってほしいという指針が求められる。（男性/25歳/正社員・正職員）
- 素晴らしいことばかり書かれていましたが、もう少し具体的な内容や画期的な取り組みがあればなお良いと思いました。（女性/18歳/学生）
- 内容をより具体的にすべきだと思います。実際の数値などを明記することによって説得力もあがると思います。また、説得力を持たせるという意味では、実例を載せても良いと思います。（女性/20歳/学生）
- データ分析の観点を取り入れてほしい。恐らくすでにやられていることなのだと思うが、エッセンスが希釈化されているのか、私にはあまり読み取れなかった。（女性/26歳/正社員・正職員）
- 様々掲げられている施策について、それぞれの分野で活動していた各省庁が蓄えてきた知見やデータを存分に活かすというのを1つの目標として掲げたほうが良いと思う。（男性/21歳/学生）

大綱の普及

- ・ 新たな視点、ポイント、以前の指針との違い、特色を分かりやすく説明した方が良い。(女性/28歳/専業主婦・夫等)
- ・ 言葉が簡単な子供向けのパンフレットがあるといいなと思います。(男性/13歳/中学生)
- ・ 子供もわかるよう解説漫画を作る(女性/14歳/中学生)
- ・ もう少し見やすいようなポスターや、大人に見せるのではなく、子供や若者にとっても分かりやすく目に入りやすいような感じにして欲しい。(男性/18歳/高校生)
- ・ もっとわかりやすく、お洒落な資料にしてくれるととってもいろんな人に伝わると思う。(女性/18歳/高校生)
- ・ 内容自体は何となくわかるのだが、大綱でイメージを図示したりわかりやすい写真やイラストで目を引いたりするなどして興味を持ってもらえるような工夫があると、注目されるのではないかと考えた。(女性/24歳/学生)
- ・ 広報啓発活動については改善の余地があるのではないと思う。(男性/19歳/学生)
- ・ 広報活動をもっとしたほうがいいと思う。私を含め聞いたことがない人はたくさんいると思う。むしろ聞いたことがあり、内容もわかっているなんて人はほとんどいないのではないだろうか。なので、もっとSNSなどで発信したりしたほうがいいと思う。(男性/19歳/学生)
- ・ 私の知識不足でこのアンケートに答えるまで大綱の存在を知らなかった。しかし、おそらく同世代の多くの人も私と同じように「自分たちがこんなにも国や地方自治体から守られている」ということを知らないと思う。困ったときに手を差し伸べる制度を時代に合わせて変える取り組みは素晴らしいが、実際に利用者となるはずの若者がそもそもこの制度を知らなくてはあまり意味がないと考える。(女性/21歳/学生)

大綱の実行性

- ・ 子供・若者育成支援推進大綱は立派だと思うが、それをどう実施していくかが一番の問題。(女性/20歳/学生)
- ・ 内容はとてもいいなあと思いました。大人が知恵を出し合って考えてくれたものだと感謝しています。自分も社会人になればこういうことを考えることに参画したいです。内容を見直すと言うよりも、書かれたことについてはしっかり実行して欲しいです。(男性/18歳/学生)
- ・ 推進するだけでなく、実際に実行するべきだと思う。そして、今現在取り組んでいることや過去に取り組んだこと等を公表すると良いと思う。私自身、「子供・若者育成支援推進大綱」という言葉も内容も今回初めて知ったので、同じような人はたくさんいると思う。(女性/20歳/学生)
- ・ 大綱に基づいて具体的にどのような政策を行うのか、もしくは行っていたのかを明記することで、子供・若者が読んでもわかりやすく、より政策に興味をもつようになってほしい。(女性/18歳/高校生)

大綱の期間

- ・ 修正したほうがいい内容は、「子供・若者育成支援推進大綱」を約5年後に改定すると記載がある点です。発足されてからの5年と今後の5年の中では変化するスピードが早く、さまざまな課題が挙げられることが考えられます。そのため、5年と規定せず少しでも変化が生まれたタイミングもしくは一年毎に内容を考える必要があるのではないかと感じました。(女性/22歳/パート・アルバイト等)

子供・若者観

- ・ 子どもの人権について、文言、視点を入れること。支援されるばかりではない、こども若者観が必要。(男性/30歳/正社員・正職員)
- ・ 子供若者は庇護されたり支援されるばかりの存在ではなく、主権者であり、身近な人や周囲に対し働き掛けられる存在にもなりうる。(女性/29歳/正社員・正職員)
- ・ 地域社会の所で、子どもを周りが支える、というふうに書いてあるけど、「子供が地域社会の一員であるという自覚をもつ、自覚を育てる」というのも要と思う。(女性/17歳/高校生)
- ・ 価値観の多様性を理解し合うこと、理想を強要させないことなどについてのなんらかの記述があると良いと思う。(女性/16歳/高校生)
- ・ 個性を認めて、若者のいいところを見つける。対応にあたる大人の育成がまずは必要。(女性/14歳/中学生)

相談対応

- ・ 相談できる窓口だったり、家庭を訪問してアドバイスをしてということに高い壁を感じる人も少なくはないと思う。匿名でラインで24時間相談できるという各種窓口があるといいし、広く広報してほしい。(女性/15歳/中学生)
- ・ 他分野との調整役や子供・若者の相談の入口として、子供・若者総合相談センターに予算が確保され、活用され、子供・若者の不安定さを下支えし、将来への不安を軽減させるようになってほしい。(女性/29歳/正社員・正職員)
- ・ 子どもたちや家族に対する支援についてたくさん考えられていると思う。しかし、子どもたちが実際困った時に「助けて」と言える環境を作るとはとても難しく、それ自体諦めざるを得ない環境にいる子どもも多にいると思う。より子どもたちが声を上げやすい環境をつくるためにどんなことを行えばいいのか、どんなことができるのか分かればいいと思う。(女性/23歳/学生)

困難な状態にある子供・若者、家族への支援

- ・ コロナの影響もありこれからますます自殺者は増えると思います。今この状況だからこそ若者の自殺対策についてもっと取り組んでいただきたい。(女性/21歳/学生)
- ・ コロナ禍の中でより一層注目を集めている、若者の自殺問題について、もう少し大きく取り上げるべき。専門のカウンセラーと無料で直接話せる機会を設けるなど、新たな対策を加えたほうが良い。(女性/21歳/学生)
- ・ 虐待の防止や抑制、取り締まりをさらに強化することが必要かと思います。児童相談所などとの連携に加え、地域一体となった取組を拡大すべき。(女性/20歳/学生)
- ・ 困難な状況にある家庭の連鎖をなくす活動はもっと充実させていく必要がある。(女性/29歳/正社員・正職員)
- ・ 学校のグループ内でのいじめが全体的ないじめにもつながってくると思うので、学校内での包括的な取り組みをするべきだと思う。具体的には、そもそも不登校をさせないような取り組みをするべき。(男性/17歳/高校生)
- ・ 客観的に子供のことを考えるのではなく、実際にその子達の立場になったとき、その取組が意味をなすものなのか考えて欲しい。子供達が自分から何か行動したり発言するのはすごく勇気がいることだからです。より心に寄り添った取組みになって欲しい。(女性/21歳/学生)
- ・ ピアサポートの活動についても活用できるのではないかと思う。心の安定に関してより積極的な対応が必要だと感じた。(男性/19歳/学生)
- ・ 若者の中でも働いている、子どもを育てている、学校に行きたくてもお金がなくて行けない等状況は様々だと思います。そのような状況に合わせた支援が出来たらいいなと思います。(女性/25歳/パート・アルバイト等)

ネット対策

- ・ ネットについて怖いことややってはいけないことについて教育や教える機会を設けたほうが良いと思う。ネットを通して知らない人物に会うことへの抵抗力がないなど、私の周りの友人でさえ感じるためもう少し工夫が必要だと考える。(女性/19歳/学生)
- ・ ネットの使い方・危険性など実際の被害や事例をもとに、上手くネットを扱えるようにする、リテラシーの強化をした方がいい。(女性/20歳/学生)
- ・ これからはネットリテラシーありきの時代だと思うので、ただインターネットに触れたり、うわべだけをなぞるような教育ではなく、もっと実態に近く、核心に触れるような教育にすべき(男性/15歳/中学生)
- ・ フィルタリングで守ることよりも犯罪に遭わない方法を教えることの方が大切だと思うので、犯罪にあった時のフォローなどが欲しい。(女性/22歳/学生)
- ・ 怪しいサイト系の啓発は十分になされているが、データサイエンス/メディア・リテラシー的な分野である情報の見方に関する啓発や教育、問題を問題と意識して体験する機会が高校まで少なく、また大綱にも見られなかったように思える。(男性/19歳/学生)
- ・ いじめについてももう少しネットで監視をするなどして対処すればいいと思いました。(男性/17歳/高校生)
- ・ TwitterをはじめとするSNSでの誹謗中傷に対応する項目を追加してほしい。(女性/19歳/学生)
- ・ 「現状と課題」の中の「情報通信環境」には「心身への影響」を追加すべき。ICT化が進む中で、視力や聴力などの悪化は免れないと思うので。(男性/28歳/正社員・正職員)

教育

- ・ 落ちこぼれを作らないこと。(女性/19歳/学生)
- ・ 教員になるひとの心の支援や教員の数を増やすという取り組みもしてもらいたい。少子化だが発達障害のある子どもが通常学級でも2、3人いるので一人ではクラスの運営が大変である。だから、もっと人員を増やしてきめこまやかな対応ができるようにしてほしい。(女性/23歳/学生)
- ・ 学校教育におけるICT導入率を上げるべきだと思う。(女性/21歳/学生)
- ・ 学校を中心とした、家庭、地域との連携という仕組みが必要だと思う。ただ学校の先生の負担が大きいため、学校のなかで連携したスタッフがサポートをする形で子供たちの支援をするなど。(男性/25歳/学生)
- ・ ただでさえ忙しい学校の教員の負担を増やす内容にしてはいけない。(女性/21歳/学生)

キャリア教育

- ・ 「子ども・若者の夢や目標を実現するための進路選択の支援」といった内容を追加していただければ幸いである。子どもや若者の将来への歩みを少しでも後押しするよう取り計らってくださればと思う。(男性/27歳/学生)
- ・ キャリア支援として、マイナーな職業も紹介するなどあってもいいと思いました。(女性/22歳/学生)
- ・ 子を育てるという教育をキャリア教育の中に取り入れ、将来の職業を考えるだけでなく、生き方の一つとして家族を持つ事や性教育などの将来を包括的に考える機会を若年のうちから触れられるように整えていけるような仕組みがあるとよい。(男性/23歳/学生)

体験活動・社会参画

- ・ 体験活動の推進にはとても賛成である。それに課題研究を追加し、一つの物事に関係している様々な事柄を分析し、多角的にみることでできる視野を養うことができる学びを取り入れるべきだと考える。体験活動の中で、現代社会で起こっている課題の現実を見て、それを解決するためにはどうしていけばよいか、一筋縄では解決できない課題に向き合う力が身につく、その力は多様化し、様々な問題に対応していかなければならぬこれからの社会で必要となる力の育成に繋がると思うからだ。（女性/18歳/高校生）
- ・ ボランティア活動をすることで人のために何かをすることの気持ち良さや感謝される喜びを体験できると思うので、ボランティア活動の企画をするとういと思う。（女性/17歳/高校生）
- ・ ひとり親家庭の子供たちへの支援として、私は現在、公民館でひとり親家庭の小中学生に勉強を教えているのですが、その支援についてもっとたくさんの人に知ってもらい、協力してほしいです。（女性/18歳/高校生）
- ・ 老人ホームや授産所など、社会的弱者の施設への奉仕を義務付けたり、過疎地・農林漁業の応援隊も組織してみても如何。都会やネット社会から抜け出て、現実の日本社会をみせ、額に汗することの大切さを知らしめるのが大事だと思います。（女性/24歳/正社員・正職員）
- ・ 政治に対しての関心を高める機会や、世界の問題（貧困層、裕福層の格差など）について知る機会を増やす政策が必要だと思う。（女性/15歳/中学生）
- ・ 社会が若者の社会参画を必要としていることのアピールを追加してほしい。（男性/17歳/高校生）

地域活性化

- ・ 地域における子供支援ネットワークは大切だと感じる。（男性/18歳/高校生）
- ・ 地域との関わりを強くできるようなものを追加して欲しい。（男性/15歳/中学生）
- ・ 地域社会のネットワークの弱体化の再構築が優先課題ではないだろうか（女性/18歳/高校生）
- ・ 近所の誰もが実践できるような内容も盛り込んでいただきたい。（男性/28歳/正社員・正職員）
- ・ 体力の向上の内容をもっと充実させてはどうでしょうか。地域のスポーツクラブを充実させて居場所をつくるのか。（女性/20歳/学生）

その他

- ・ グローバル人材、科学技術人材をさらに掘り下げ、専門的な能力や技術をもつ若者への支援や受け入れの拡充。（女性/23歳/正社員・正職員）
- ・ IT化が進み、リモートワークが主流になってきた現代、ネット環境の改善を。（女性/20歳/学生）
- ・ 未成年、大学生の飲酒、喫煙に関することを追加したらもっといい。自らしてる人もいますが、強制されてる人も多いと思うので。（女性/20歳/学生）
- ・ ネット社会のなかでは、正しくない知識の方がたくさんあるため、健康と安心・安全の確保と謳うのであれば、正しい知識を得るための大綱を期待したい。（女性/25歳/正社員・正職員）
- ・ 児童買春、児童ポルノに係る犯罪等を根絶する方法として、早期発見など大人をどう変えていくかといった内容が多かった気がします。私は一番の問題は子どもが児童買春などの危険性に気付いていないことだと思います。（女性/18歳/高校生）